林檎停通信

NO.148　2015.1.25

長野県北安曇郡松川村　町田　登・幸子

新年です。皆様いかがお過ごしですか。安曇野の山里はまさに濁りのない白い雪の世界に変化しました。外気温がマイナス10℃ぐらいの朝もたびたびあり氷道はどうかなあと心配になります。そんな朝は“かんじき”という現象が起き雪の表面が凍て付くのです。宮沢賢治の「雪渡り」に解かり易く説明してあります。温度差が大きくなる春先に多い現象なのですがひょっとして春が近いのかなあと思ったりもします。身の軽い小動物が真夜中に歩いた足跡がりんご畑に付いていて思わず後を追いたいという心境になるときもあります。

さて私たちの新年はと申しますと、喪中につきということで、おめでとうという新年会のお誘いは誰からもなかったのですが、孫たちの集合でそれはそれは賑やかでした。いい機会だからキムチ漬けの講習会を開いていただこうと、講師を幸子さんの姪にあたるその旦那にお願いした。彼は神戸で会社を興していた在日の二世であり、その会社をたたんで奥信濃の小布施町に住居を最近構えて静かな暮らしを始めていた。神戸は私にとって遠いところでしたので、これからは近いのでよろしくとの顔合わせです。材料はあらかじめこちらでレシピ通りに用意しておいた。韓国産の粉状とあらびきのトウガラシ・イカの塩から・アミ・カラシメンタイコ・ゴマ・細ネギ・大根・ニンジン・ショウガ・ニンニク・白菜・りんご等々。野菜とりんごを形を残すほどに切って、他のものと混ぜ合わせて、あらかじめ塩漬けにしておいた白菜の葉を一枚々々めくり具をはさみ込む手順でさあできあがりです。孫たちとワアワア言いながら二週間が楽しみだよと。

毎年、野沢菜と大根は幸子さんが漬けるのだが、キムチは私の担当でもう15年以上は続けている。でもその道の通に言わせるとの足りぬと。せっかちな私はりんご10個ほど入るジューサーを昔から所持していたので、材料全てをそれにぶち込み、白菜と同量のりんごが入っているから塩かげんもいいだろうという忙しさにかまけてのいわゆる合理化だったのだ。彼曰く、発酵はジクジクとするものです。こまめに何回となく楽しむのがいいでしょう。さあできたぞと食卓にのった。幸子さん曰く、やっぱりお父さんのものとちがうわ。謙虚なる私は、はいそのとうりですと頷いた。

仕込みの終った後、お茶を飲みながら彼とヘイトスピーチの話題を少しと頭をよぎったが、それは個々の歴史観や宗教につまるところだから次にしようと言葉をつまらせた。ただ確実に韓国も格差社会になりつつあるとの話しであった。食文化も双方理解しあえるてだてだとつくづく感じた講習会であった。

私たちのりんごも遠い昔に外国からやってきたのです。皆さんが今食べているりんごはたまにこの通信に書いていますがアメリカから導入されたものですが、それよりもずっと前に中国からやってきたようです。　古典の「明月記」に鎌倉時代であったと記されているようです。大君が、“その若い女人のほほのような色をしたものはなんじゃ、はいこれは唐の国からきたりんごというものです”と言ったかどうかわかりませんが、いずれにしても初めは特権階級が口にしたものでしょう。

私は興味があったからその樹の枝をいただいて我が樹に接木した。3年目に、ゴロゴロとピンポン玉ぐらいの実を付けた。食べてみてもそう渋くはない。その葉は柿の葉に似たような形をしている。遥か遠い昔からこのりんごを伝え育ててきた人たちも偉いものだが、農薬なんぞなかった時代から今まで生きぬいてきたことは驚きである。布教のおみやげはいろいろあるがまさかりんごがあったとは。グラニースミスと同じように、この春にその種を播いてみようと思っている。

「文明開化は長崎から」という本を読んだ。布教のついでにポルトガルから鉄砲も届いた。長崎にも兵器からはじまってあらゆる文明が花開いた。向学心に燃える医者たちが全国から集まった。しかしその進歩を止めてしまったのは戦争好きの無学の武士たちであったと、幕末までの歴史を記録に基づいて細かくていねいに調べて書き上げた本である。（ロスチャイルドの赤い楯という本も大きなスケールだった）その武士たちが明治維新を起こすのだが、倒幕のため尊王攘夷とやらをふりかざして権力をにぎり、進歩的な頭脳を抹殺して日清戦争等へ導いて行った。もしそれらの輩がいなかったら太平洋戦争もなかったのではないかと考えられる。長州藩の末裔がずっと日本を引きずっていることは確かだからだ。歴史評論家は数々いれど御用達ばかり。NHKの大河ドラマなんかも、ちゃんとした史実に基づかず、人気俳優を使って講談調の娯楽番組にして体制に順応している。テレビを見ながら、うんうんと頷いている大人は昔ほどいないと思うがメディアに対して私たちはもっと鋭い視線を向けなければいけないと思うのだが。

河童さんは神戸でアメリカ軍の飛行機の下で何度も死線をさまよったという少年Hの頃である。“欲しがりません勝つまでは”“ぜいたくは敵だ”のあい言葉の下で、稲わらを刻んで煮炊きしたものを食べさせられたといった。プロテスタントの両親はそんな食卓に必要のないフォークとナイフを置いたという。笑うに笑えない場面だ。たまたま運がよかったから生きのびられたのだとも言った。助けてお願いと祈るのは戦場では誰もがそうするのだ。

私たちの娘の旦那はトルコ人だ。日本に住んでいるからか、バカな私たちがいるからか敬虔なるイスラム教徒ではない。私が危惧するのは日本の心ないいじめだ。歴史と世界観を広くすればすぐ理解できることなのだが。ホモサピエンスがアフリカから生まれたと。イギリスがアフリカの人々を奴隷としてヨーロッパの国やアメリカに売り渡した。人間を商品として差別区別してだ。永い年月の傷を残しながら各国は独立した。エネルギーの宝庫はその奪いあいで更なる戦争となる。宗教の名を借りた欲望ゆえの戦争である。大国の覇権主義者、武器商人たちがよってたかる。　日本はどうするのか、どうなるのかなんて私たちが考えている間に、もう戦争の準備は始まっている。選挙で指示されたのだから言うことを認めろとどんどん大変な方向にむかっている。さあ彼等を選んだ人の責任はあるのかないのか、選挙に参加しなかった人たちで無責任党を立ちあげれば過半数の議席がとれて第一党になれるぞ、なんて私のきらいなお笑いタレントみたいなことを言っている場合ではないのだ。歴史からはじき出されないように確かなたくましい大人になって欲しいと思うのが私の若い人たちへの祈りであります。

食文化はとても大切なものです。できれば人様にたよらず自分で創作すべきものです。自分で作りあげたものは無駄にできません。農的な暮らしは誰にもできるという現実ではないのですが、そこに少しでも近ずけば世の中の見方も生き方も変わってゆくのではないかと思っております。新年のキムチ作りから少し飛躍してこんな手紙になりました。どうか本年もよろしくおつきあいをお願いします。昨年のりんごの収穫量は前年の2割ほど少なかったので1月で全て終了しました。ありがとうございました。尚りんごジュースは倉庫にいっぱい詰まっておりますのでお求め下さい。　ここは解放区ですのでいつでもあそびにおいで下さい。
お待ちしております。